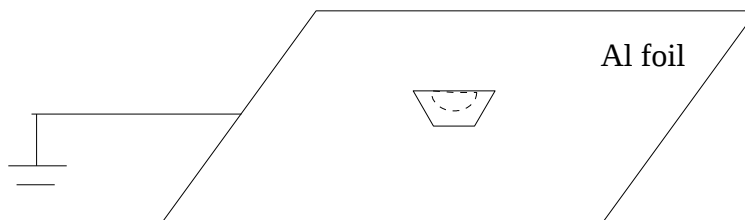


文章を丁寧に書くのは面倒なので概略図のみ。(雰囲気を感じ取って欲しい)

### 1. 試料を適切に粉碎。

気になるなら  
アース確保

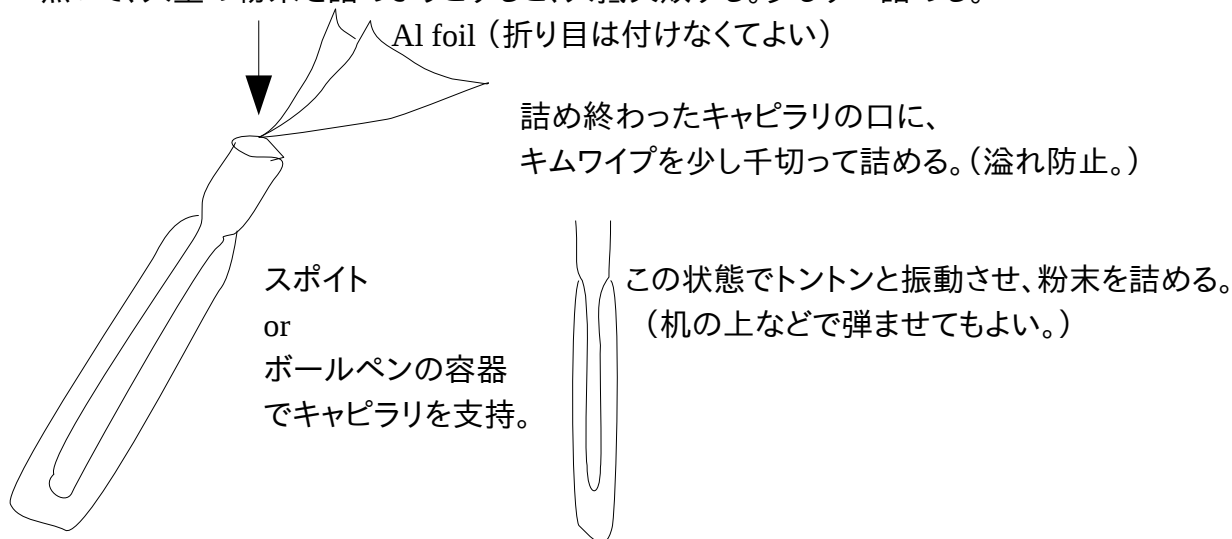


静電気を帯びやすい物の上での作業を避ける  
(パラフィン紙など)

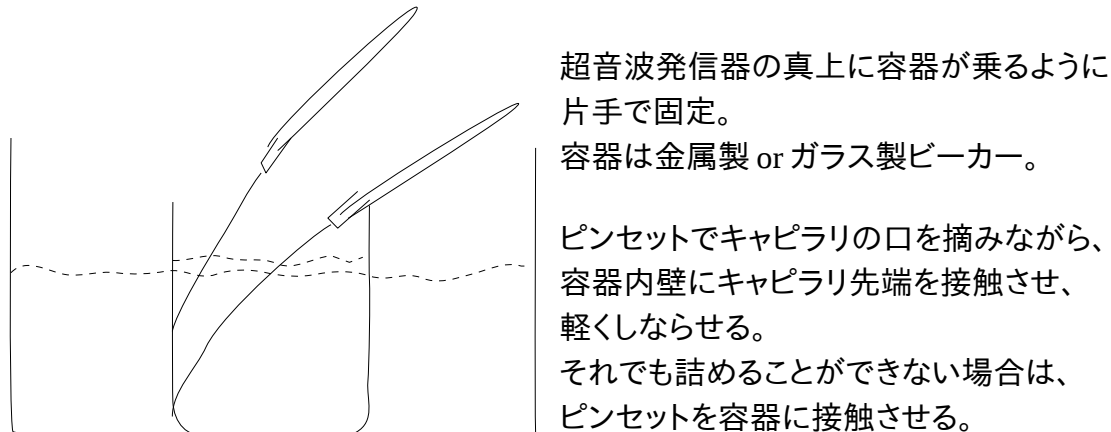
メノウ乳鉢は内面(粉碎面)をよく洗浄する。(王水などで表面ごと溶解させたりもする。)  
金属製スパテルはなるべく避けたほうが良い。(メノウが削れて混入の恐れあり。)

### 2. 調製した粉末をキャピラリに詰める。

焦って、大量の粉末を詰めようとすると、大抵失敗する。少しずつ詰める。



なかなか詰めることができない場合は、グラスファイバで詰めるか、超音波洗浄機を利用。



0.1mm $\phi$ のキャピラリは比較的丈夫なので、少々しならせても問題無し。  
より大きな内径のキャピラリは折れやすいので注意。

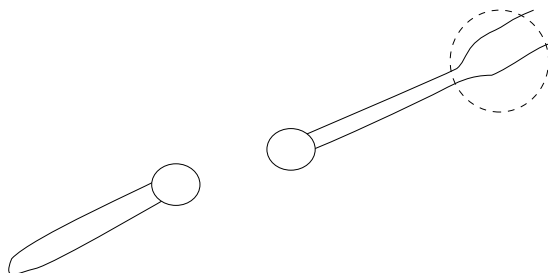
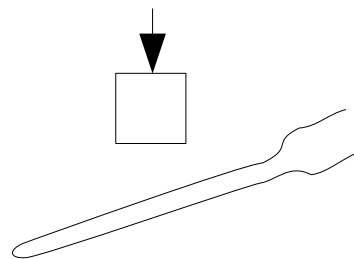
3. キャピラリを封じ切る。

取扱いが容易な粉末は次のように封入を簡素化してよい。

試料が詰まったキャピラリを必要な長さにカット。

カッター、爪先などで切る。

切り口をアロンアルファなどの接着剤で封じる。



必要ならば最後に油性マジックで物質名を記入。